

第7回草津市総合計画策定委員会概要	
日 時	平成21年4月16日(木) 11時20分～12時20分
会 場	庁議室
出 席 者	山岡副委員長、三木委員、加藤委員、林田委員、北川委員、山本委員、田内委員、勇委員、西村委員、善利委員、中村好委員、片岡委員、岸本委員、上寺委員、平井委員、田村委員、森委員、中村良委員

1. 開会

2. 議事

第5次草津市総合計画検討資料【基本構想(素案)】について

事務局より説明

《意見等》

- ・キャッチフレーズ(案)に「出会いにあふれるまち」とあり、この中で「街道文化が・・・交わりにふれて心遊ばせ、生き生きと・・・」としている。この文章の前段のイメージと後段の「心遊ばす」とが結びつきにくのではないか。むしろ「心豊かに」の方になるのではないか。
 - ・「滋賀県の教育はどうなんだ」と考えた時に、他府県に比べて、教育委員会の姿勢も含め、なかなか改革が進んでいない。色々な問題について、上から下にスルーしているだけというイメージがある。ここで草津市が、「滋賀県だけではなく日本の教育を変えるんだ、先進地になる必要あるんだ」という思いを先生方に持っていただきたい。そのために各学校は何ができてのるかという事を先生方とよく話をする。そう言ったことから、「滋賀県の中で草津が色々な意味でリードしていくんだ」という、この考え方は非常に大事である。草津市には有利な条件が揃っている、ここから変えていくんだという事が大切だと思う。
 - ・自負と責任の中に「文化」という文言があったが、予算も含めて、「文化」を先導、自負できるようなものが、本当に草津市にあるのかという事には疑問を感じる。これから「それを高めていくんだ」という意気込みは良いと思うので、是非ともそうなるように頑張ってもらいたい。
 - ・本当に「文化」を先導、発信しているのかを市民に納得してもらえるのか、これからやっていくと言う事であれば良いと思うが、少し表現の仕方に無理があるのではないか。
- 10年後のまちのイメージを書いているので、「便利で快適」という事だけではなく、「文化や教育」などをキーワードにし、市民文化のように市民が誇れるまちという意味で表現した。
- ・自律する地域経営の中に「地域経営がはじまっています」という文言になっているが、10年後のまちを見据えているのであれば、「はじまっています」では若干遅いのではないか、「実行しています」などにした方が良いのではないか。そういう目標でやらないといけないと思う。
 - ・この「将来ビジョン」は、今後の人と自然、歴史と文化を読み取れるものになっている。今の世の中を考えると、ひとつひとつの関係が切れ、希薄になってきており、乾いた都市になってきている。「うるおい」「心地よさ」のような表現を、草津を総称するような言葉として、「ふるさと」という言葉を入れてもらいたい。キャッチフレーズに入れるならば、例えば「市民が誇る出会いのふるさと草津」のように。「ふるさと」という言葉が色々なものを創造させるのではないか。

- ・将来ビジョンの中にある「自律する地域経営」には、「協働」という言葉を表現してあるが、基本方向の中の「元気があふれるまちへ」には、「協働」という言葉が使われていない。まちづくりの姿勢には、「協働」が使われている。将来ビジョンと基本方向がリンクしているのであれば、基本方向の中にも「協働」という言葉が必要ではないか。
 - ・施策（案）の中で「地産地消の推進」とあるが、この商業・サービス業の分野にだけ留まるものではない。農業であったり工業であったり、あらゆる分野に関わってくるのではないか。また、先ほど基本方向に畜産業を加えるということであれば、施策体系の中にも加えるべきではないか。
 - ・体系の中に行財政評価の実施とあるが、これは細かすぎる。自治のあり方や自治のシステムを新しく変えるという総合計画の精神を鑑みると、行政システム改革の推進という施策を組み込んだ方が良いと思う。
 - ・まちづくりの基本方向の元気があふれるまちの中で、「中心市街地の活性化」とあるが、これは商業、サービス業だけではなく、都市工業についても今検討している最中だが、総合的な表現にした方が良いのではないか。
- この部分についても、策定委員会で本当にコンパクトなまちを目指すのか、各地域を整備して中心市街地と結びつけるのか、以前より議論はしていた。草津市の都計審の塚口先生にも、3点のアドバイスはいただいた。1点目は、文化交流ゾーンの草津田上ICの活用を位置づけること。次に、これからのまちづくりを考えていくには、まちなか環状道路は非常に大切だということ。3点目は、本当に「コンパクトシティ」を目指すのかどうかということ。全ての機能を中心市街地に集約するまでの必要はない。都市機能の一定の集約はするべきであろう。しかし、草津市のまちづくりを考えたら、全体が広がったまちとなっているので、クラスター（房）のような、どこかに周辺も集まらなないと、全て公共交通を整備することは難しい。それぞれに地域の核を作り、それを中心市街地と結びつけるようなまちづくりが大切である。以上を考えると、この総合計画では、今検討されている中心市街地再生計画のことも踏まえて、中心市街地のあり方の位置づけをきっちり行っているのだから、整合がとれていると考えている。
- ・市長のマニフェストでは、「定住を前提とした中心市街地活性化計画の策定」に取り組むとなっているが。
 - ・キャッチフレーズについて、「市民が誇る出会いの都市 草津」が事務局案として提案されているが、「出会いの都市」だけでは何か物足りない。「都市」という言葉が、何か堅苦しく堅いイメージがある。短いものが良いという意見あり、出会いの後に、もう一言入れられないか。「ふるさと」という言葉を、基本方向の文中にもっと使う事はできないか。
 - ・まちづくりの姿勢は、今後10年間こういう姿勢でまちづくりに取り組んでいくというものである。「地域経営への転換」と「市民自治基盤の強化」については、確かにその通りだと思う。ただ、この2点では何か足りないのではないか、他に足りないものがあるのではないか。草津市がまちをつくっていく基本姿勢は、他にもっと大事なものがあるのではないか。「姿勢」と書いてしまうからなのか、他に良い表現はないのか。
- もともとはまちづくりの「理念」を掲げようとしていた。

—以上—